

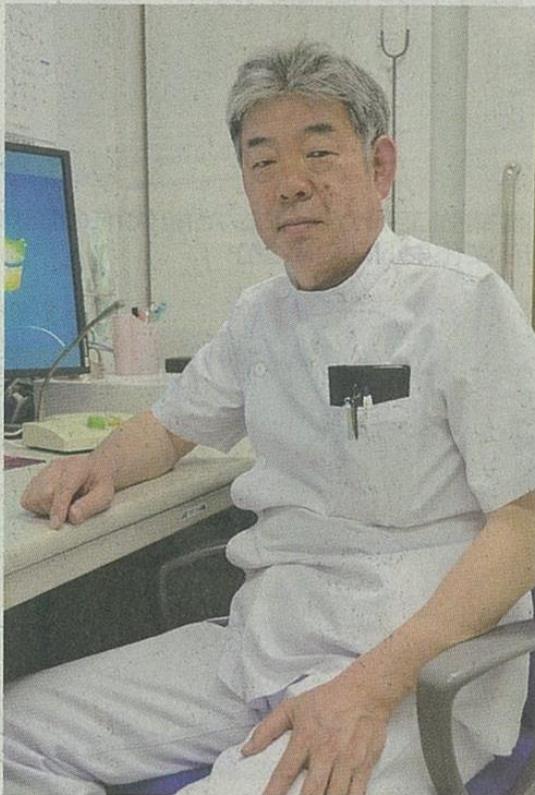
神経内科医が常勤

認知症の治療にも対応

能代市松山の能代山本医師会病院（高橋貞一院長）に、1日から常勤の神経内科医として佐藤雄一さん（60）＝秋田市＝が就任する。これまでは週1回、県立脳血管研究センター（秋田市）の医師が再来患者や入院患者に対応してきたが、着任後は週3日の外来診療日を設定、新規の患者を受け付けるほか入院患者の対応も充実させる。能代山本で神経内科医の常勤は同病院が唯一となる。佐藤さんは「能代地区の医療の一端を担えれば」と話している。

佐藤医師、きょう就任

佐藤さんは福島県出身。脳血管研究センターの医師として働き始め、平成昭和57年から本県の県立20年のリハビリテーション



4月から神経内科部長を務める佐藤医師

ン科診療部の立ち上げにも携わり、同科部長を務めた。神経内科は脳や脊髄、神経、筋肉の病気を診る内科。よくある症状で

は、しびれやめまい、ろれつが回らないなどがある。佐藤さんは中枢神経や脳血管疾患の治療に当たってきた。これまでも週1回、能

代山本医師会病院で再来患者や入院患者を診察。アルツハイマー型認知症や脳血管性認知症、パーキンソン病の患者が多く、中には筋萎縮性側索硬化症（ALS）といった難病の患者もおり、薬物療法とリハビリが主な治療法となる。「アルツハイマー型認知症の薬は数種類あり、薬物療法で問題行動をコントロールすれば一緒に暮らす家族の負担も減らすことができる」と話し、高齢化の中

で需要の高い医療でもあると受け止める。

また、「神経内科は、診断はできても根本的な治療が難しい分野で病歴が長い人が多い。常勤となることで患者や家族に安心してもらえと思う」とも語り、医療を必要とする人に寄りそう姿勢を見せる。

能代山本で神経内科の常勤医がいるのは同病院のみで、県北でも唯一。高橋院長は「きちんと診断、治療できる専門医がいることは県北地区全体としてもメリットがある。他の病院と連携を取りながら少しでも地域の医療に役立てれば」と期待している。

神経内科・もの忘れ外来は火、水、金曜日の午前中。毎月最終水曜日は、認知症治療に力を入れている長田乾医師が外来診療を行う。